

アメリカ合衆国大統領
バラク・フセイン・オバマ 殿

アメリカの未臨界核実験に強く抗議する

米政府が9月15日、オバマ政権では初めての未臨界核実験を米ネバダ州地下核実験場で強行していたことが10月12日に明らかになりました。

世界が、核兵器をなくすために努力しているなかでの暴挙に、私たち婦人民主クラブは強く抗議します。

5月の2010年NPT再検討会議では、米国はじめ核保有国を含めて合意した最終文書に「核兵器禁止条約」に留意するとの文言が入り、次回2015年再検討会議に向けて、2014年の準備委員会に核保有国が核兵器廃絶のための進展状況を報告することが確認されました。

こうした動きは、「核兵器と人類は共存できない」と訴えてきた被爆者はもちろん、世界の世論を反映したものであり、核兵器廃絶への流れを加速することにつながっています。NPT再検討会議後の9月からの国連総会でも、核廃絶のための議論がなされ、世界の国々が努力しているところです。

今回、米国の未臨界核実験は、そうした、NPT再検討会議の最終文書の精神からも逸脱し、世界の核兵器廃絶の世論にまったくそむくもので許すことはできません。

私たちは、オバマ大統領が広島・長崎の実相を知り、被爆者と核被害者の苦難を受けとめ、今後一切の核実験計画を破棄し、世界の核兵器廃絶の世論に二応えて、その先頭に立つことを強く要求します。

2010年10月14日

婦人民主クラブ
会長 櫻井 幸子